

平成30年度 学校自己評価表 (計画段階・実施段階)

9

福岡県立小倉南高等学校長

(No.1)

学校運営計画				評価		
学校運営方針		歴史と伝統、南高 PRIDE を継承し、志を高く掲げ、自己実現を目指す、心身ともに健全な生徒の育成を推進する。また、グローバル化社会に貢献できる、本質を究められる学力を培い、信頼度の高い学校文化を構築する。				
昨年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標		
昨年度は特別活動、特に学校行事をおとした人間力育成において大きな成果が見られ、またその人間力を基盤として進路実績においても大きな飛躍が見られた。 本年度は、昨年度の成果を踏まえつつ、○さらなる教師力向上（教科指導力、生徒指導力）、○共通理解、共通実践に基づく部課長制によるさらなる系統的、組織的な校務運営、○教育活動に対する迅速・的確な検証・分析及び改善を進めることにより、進学校としてさらに信頼される学校づくりに取り組むことを課題とする。		教育方針 「鍛え、ほめ、生徒の可能性を伸ばす」 「自主」「創造」「親愛」の校訓のもと文武両道の伝統を継承し、学習活動、部活動、特別活動等に意欲的、主体的、協働的に取り組む生徒の育成に努めるとともに、社会の変化に的確に対応した学校改革を積極的に進め、生徒に高い進路希望を持たせ、確実に目標実現させるための教育活動を学校全体として計画的に行う。また、人権尊重の精神を涵養し、いじめ、暴力、差別等は絶対に許さない人間教育を根幹とした教育に取り組む。		凡事徹底（時を守り、場を清め、礼を正す）		
				人権尊重の精神の涵養（いじめ、暴力、差別等の撲滅）		
				「授業で勝負する」の理念のもと常に日々の授業を分析検証し、改善に向けて努力し、学習意欲の向上を図る。（大学入学共通テスト・国公立大学二次試験に対応する学力の育成）		
				「ネオ・サザンクロスプラン」を軸とした「南高スタンダード」の確立		
				特別活動（生徒会活動、学校行事、ホームルーム活動）、部活動やボランティア活動等をおとした逞しい人間力育成		
				関係機関（地域、大学等教育機関）との連携によるDAL（Deep Active Learning）		
				部課長制の利点を生かし各分掌や委員会業務の充実を図るとともに、学校全体の課題に対する協働体制づくり		
				本校の教育実践の広報活動に努め、学校全体で本校の教育に共感を抱く保護者、生徒の拡大を図るとともに、挑戦意欲旺盛な生徒の獲得		
教育公務員としての高い倫理観と服務規律を遵守する姿勢の徹底						
新学習指導要領、高大接続改革の視点による授業改善、観点別評価研究						
部分掌・学年	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度の主な課題
教務	自宅学習時間 （1日平均） 1年：120分 2年：140分 3年：160分	・教科指導の充実と学力の向上を目指す。	1学年特別進学クラスを編成し、顕著な学力の伸長を達成するために、より効果的な教育活動を展開する。			
			進路部と連携し、2学年及び3学年において進路希望に応じた類型を設置し、より一層の学習効果を図る。			
	出席率 1年：99.5% 2年：99.0% 3年：99.0% 全体：99.2%	・授業規律の確立に努める。	生徒、教員ともにチャイム席を遵守し、授業時間の確保に努める。			
			授業を生徒指導の最適の場と捉え、緊張感のある授業を展開する。			
部	校内の円滑な行事運営に努める。	・各部、各課と連携し、校内の円滑な行事、儀式等の運営に努める。	行事・儀式等の円滑な運営のための企画・立案や各部との調整を図る。			
			二ヶ月分の行事予定表（細目）を各月の上旬までに配付し、各行事の周知徹底を図る。			
	PTA活動の活性化を図る。	・PTA活動を推進し、学校と家庭との相互理解を深める。	PTAとの連携を強化し、学校と家庭との相互理解を図るとともに、適切な運営とPTA活動の活性化に努める。			
			学校要覧、学校案内等の内容の充実や学校ホームページの更新を随時行い、より効果的な広報活動を推進する。			

部分掌・学年		評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	
生徒	指導課	1. 基本的生活習慣標 授業出席率 <u>99.2%</u> 2. PTA合同「挨拶運動」 各学期毎3日間実施 3. 部活動目標 ア 加入率 <u>8.6%</u> イ 県大会 運動部 1.5 文化部 4 ウ 九州 5 エ 全国 4 (以上延べ)	・基本的生活習慣の確立 校則・マナーの遵守 ・愛校心、帰属意識を高める	社会規範・校則遵守の精神の涵養と自己指導能力の育成に努める。		
				「学校いじめ防止基本方針」を策定するとともに、「いじめ防止・撲滅」に対する全職員・生徒の意識の高揚を図り、「いじめの早期発見・早期対応」体制の整備・充実に努める。 生活指導の徹底を図り、校則違反や特別指導の減少に努める。 職員、生徒、保護者が一体となって「挨拶運動」の取組を推進する。 学校行事のより一層の内容の充実に努めるとともに、学校行事を通じて本校に対する帰属意識を育成する。 挨拶、ボランティア、学校生活等の活動において、生徒会執行部及び部活動所属生徒の果たすべき役割を明確にし、活動の活性化を図る。 部活動成績の掲示により、加入率、活動意欲の向上を図り、部活動の活性化を図る。		
部	健全課	生徒及び職員の心身の健康維持増進。 委員会活動の活性化。 生徒情報の把握と円滑な生徒支援。	・保健室利用者数の把握 ・保健日より定期的発行 ・事務室と連携し校内施設の安全管理に努める。 ・美化意識の高揚に努める。ゴミ処理、減量の改善立案。施設の安全改修に努める。 ・教育相談活動を積極的に進める。生徒支援活動をより拡張して推進する。	保健室利用状況を関係職員で情報共有し、生徒の心身の健康維持増進に役立てる。必要に応じて、専門医との連携をとる。		
				保健日より毎月1回発行。生徒委員会活動を活性化させる。		
				美化、保健委員会活動を活性化させる。		
				掃除監督の徹底を図り、生徒の美化意識の高揚に努める。		
				毎日の清掃を徹底させ、美化意識の高揚を図る。掃除監督の徹底。清掃に関わる経費の削減、ゴミの減量化を目指す。		
進路	キャリア教育課	一学年(1月進研) 総合3教科 50以上120名以上 二学年(1月進研) 総合3教科 50以上100名以上 三学年(進学結果) 国公立大90人以上 (AO・推薦50人以上) (一般入試40人以上) センター受験率 80% (二次受験 65%) 四年制大進学率 80%	・教科指導体制の確立 進路実現への実力養成を目的とした教科指導計画の作成とその実践 ・進学体制の確立 3年間を通じた進学指導を実践し、四年制大学進学率70%の達成 ・進路意識の確立 生徒・保護者・教員の共通認識による、適正な進路希望の確立	全国の国公立大学と難関私立大学に対応できるように、センター試験まで理系5教科7科目、文系6教科7科目の軸足を学校に置いた実力養成を目指す。		
				英語資格試験や全国模試を受験することで、これからの入試改革に求められる実力の養成と、進路意識および学習意欲の向上を目指す。		
				夏季・秋季・冬季休業中にキャリア教育・集団学習会を実施し、進路意識の高揚と学習指導の充実による学力向上に取り組む。		
				大学、企業、地域との連携によるキャリア教育を1学年5回、2学年3回、3学年3回を実施する。		
部	情報課	ホームページ更新 職員研修 情報機器の点検 図書館の活性化	・ホームページを月1回以上の頻度で更新する。 ・年間2回以上の情報研修会を実施する。 ・学期に1度は情報機器の点検を実施する。 ・年間読書数 5,000冊	ホームページの更新を月に4回は行い、保護者・地域・同窓会・中学生への情報公開を活発化する。		
				職員のニーズや県の取組みに合わせた内容の職員情報研修会を企画し、実施する。年間2回以上の実施を目指す。		
				情報機器の点検を学期に1回は実施し、管理を徹底する。また、ICT環境のより一層の充実に努める。		
				読書数増加に向けて具体策を講じ、数値目標の達成に努める。		

部分掌・学年		評価項目	具体的目標	具体的方策			
進路部	支援課	支援が特に必要な生徒の修学保障と進路保障を図る。	・校外での支援の連携を効果的に図る。必要に応じた家庭訪問の実施	生徒の修学困難な理由を早期に把握、分析してその課題解決のための手段を講じる。経済的・個別的な教育課題を抱えた生徒等の支援を行い、確かな修学・進路保障を図る。			
		就学・就労保障のための支援体制の構築を図る。	・高同推の進路担当者会の参加により生徒に還元できる情報収集	就職、公務員希望者の進路実現達成のための支援を図る。また高進協、進保協、職安との連携を通じて適正な選考が行われるように 就学・就労支援に取り組む。			
		支援金、奨学金等の案内を通じて、生徒の進路の支援につなげる。	・経済的支援制度の家庭の実情に応じた活用	日本学生支援機構をはじめとした奨学金の情報を伝え、進路保障のため保護者・生徒が活用しやすいよう理解を深めるための対応を行う。また支援金や給付金について事務室と連携して取り組み、生徒一人一人の教育環境等の把握に努め、支援につなげる。			
研修部	研修による指導力の向上		・校内・外研修体制の充実を図り、職員研修の推進により教育活動の活性化に取り組む。	転任者研修会及び職員研修会を各分掌と調整し実施する。 初任者研修、2年経過研修、5年経過研修など経年研修を実施する。 運営委員研修会を年間2回実施し、各部・課間の運営調整を行う。 センター研修、公開授業等の案内を行い、職員の積極的参加を促す。			
			・全職員参加の授業研修を実施し、授業改善に努め、教科指導の充実を目指す。	全学年対象の公開授業週間を6月に1週間設定し、事後に意見交換の研修会を実施する。 授業研修会（公開授業）を9月に実施し、中学校、塾、保護者、地域に向けた広報活動も行う。 校内研究授業の実施に向けて、授業改善検討委員会との連携を行い、情報の共有、わかる授業の実践を図る。			
			・研究紀要「紀要南薫」を発行し、各研修等の成果を普及する。	研修への参加報告及び各行事の実施報告書、要項等も記載し、次年度の資料として有効活用できるように作成する。			
学年部	一年	授業出席率 99.5% 家庭学習時間 1日120分以上 1月進研模試 3教科 偏差値50以上 120人以上 GTZ B1 80人以上 A3 30人以上	・基本的生活習慣の確立	挨拶の励行、適切な言葉遣いの指導、校歌指導等の徹底。 学年行事（自立と協働を学ぶ体験活動）を効果的に活用し、集団生活を通して社会性を養う。			
			・授業規律の確立と基礎学力の定着	チャイムからチャイムまでの授業を実施することで、授業規律を確立するとともに、小テストや週テスト、課外授業やそれらの事後指導を有効活用する。 習熟度別授業等を実施し、生徒の実態に応じた「分かる授業」を展開する。			
			・将来を見据えた進路目標の設定・進路選択	キャリア教育課と連携を図り、進路意識の高揚と早期進路目標の確立に努める。			
	二年	授業出席率 99.0% 家庭学習時間 1日平均140分 1月進研模試 英国数偏差値50以上の生徒 100人以上	・基本的生活習慣の確立	時間厳守、出席率向上にさらに取り組み、基本的生活習慣や規範意識を身につけさせ、凡事を徹底させる。			
			・授業規律の確立と基礎学力の充実	チャイムからチャイムまでの授業を実施することで、授業規律を確立するとともに、朝テスト・小テスト等の事後指導を有効活用する。また、習熟度別クラス編成と習熟度別授業を実施し、生徒の実態に応じたきめ細かい授業を展開する。			
			・進研模試における数値目標の達成	デジタルサービスや classi の活用をしながら模擬試験に対する取り組みを充実させるとともに、結果を分析し、適切な進路指導を実践する。			
学年部	二年		・将来を見据えた進路目標の設定	キャリア教育課と連携し、進路意識の高揚に繋がる仕掛けを引き続き実施し、早期進路目標の確立に努める。・オープンキャンパスへの全員参加・個人面談・卒業生との懇談			
			・人権意識の高揚	教育活動全般を通じて校訓の精神を自覚させるとともに、人権意識の高揚に努める。			

部分掌・学年		評価項目	具体的目標	具体的方策			
学 年 部	三 学 年	出席率 授業出席率 99.0% 家庭学習時間 1日平均 160分以上 進路目標 国公立大学 90人 四年制大学進学率 80% センター受験者 80% 国公立大学受験者 センター受験者中	進路目標達成に向けた教育活動を実践し、自主・創造・親愛の精神と愛校心の育成し、最上級生としての矜持を醸成する。 また、全ての教育活動を通じて人権意識の高揚に務める	進路指導部との連携を強め、進路意識の高揚を図る。また適切な進路情報の提供や個別面談を重視し、生徒一人ひとりの第一希望進路達成のため全力を尽くす。			
				進路説明会や学年通信を利用し、進路情報を適切に保護者に提供し、学校・生徒・保護者が一体となった進路指導の実践に取り組む。			
				習熟度別クラス編成と習熟度別授業の実施、放課後学習（含む遅刻・欠席指導）の充実等により、学力の向上を図る。			
				課題提出の徹底。家庭学習時間の確保に努め、自ら学習する意欲を高める。			
				校外模試の結果を迅速・適切に分析し、生徒の実態把握と目標達成のための具体策を講じる。			
				課題を抱えた生徒との関わりや保護者との連携を密にする。			
				学校生活全般を通して、「自主・創造・親愛」の精神を自覚させるとともに、最上級学年としての矜持をもたせる。 学校生活全般を通して、人権意識の高揚に努める。			